

井の頭自然文化園 80周年記念イベント

飼育係からのお便り

園内で見られる動物について飼育係がアピールします！



動物園 (本園)

1 ネズミのなかま

今月のピックアップ動物は…

動物園(本園)の資料館では、日本に生息するネズミを7種類飼育しています。同じネズミのなかまでも姿がたち、くらし方で様々な違いが見られますよ。

小さくても、アクティブ

カヤネズミは、おもに背の高いイネ科の植物からなる草原で生活する、日本で一番小さなネズミです。口で細かく裂いた草を器用に編んで草の上や地表に球状の巣を作る、珍しい習性をもっています。



ワラで作ったカヤネズミの巣

当園では、そんな巣作りをする様子や、長い尾を巻きつけて草木に登る姿が見られます。小さくてもアクティブに動くカヤネズミにぜひ注目してみてください。



ネズミたちの歯

ネズミのなかまの前歯(門歯)は、一生伸び続けます。野生では硬いものを食べることで歯が削れるため、伸びすぎて困ることはありません。そこで当園では、硬いエサや木材を与えて、それらをかじるうちに自然と歯が削れるよう工夫しています。特に、野生では種子を好んで食べるハツカネズミなどは、ケース内の木材を頻繁にかじる様子を観察できます。



ハツカネズミ

文化園 80年のあゆみ

「オシドリ千羽計画」

井の頭自然文化園では1988(昭和63)年から、園で繁殖させたオシドリを井の頭恩賜公園へ放鳥する取り組みを行ってきました。公園にはオシドリの主食であるどんぐりがなるコナラやシイの木が少ないなどの理由から、定着は困難でしたが、2010(平成22)年までに1081羽を放鳥し、計画を終了しました。この計画中に得たオシドリの繁殖技術は、今の文化園でのカモ類の繁殖に活かされています。



放鳥の様子 (1994年)

オシドリのオスはどいへ?

色鮮やかな姿で知られるオシドリのオスですが、8月頃になるとケージ内からオスがなくなっただよに感じる場合があります。これは繁殖期が終わり、メスへアピールする必要がなくなったオスたちの華やかな羽が抜け落ち、地味な姿に変わるからです。自立たない姿になることで天敵に見つかりにくくなります。



繁殖期のオシドリのペア



この時期のオスとメスはよく似た姿をしていますが見比べてみると違いがあります。どこが違うのか、探してみてくださいね。(ヒント: 顔に注目!)

←非繁殖期のオシドリのオス

木のぼり上手なニホンアマガエル

ニホンアマガエルは林の木や家の壁など、色々な場所に登るのが得意なカエルです。「カエルハウス」ではヤツデの枝や葉の上によくいます。見つけたら、脚に注目してみてください。



ガラスに張り付くニホンアマガエル

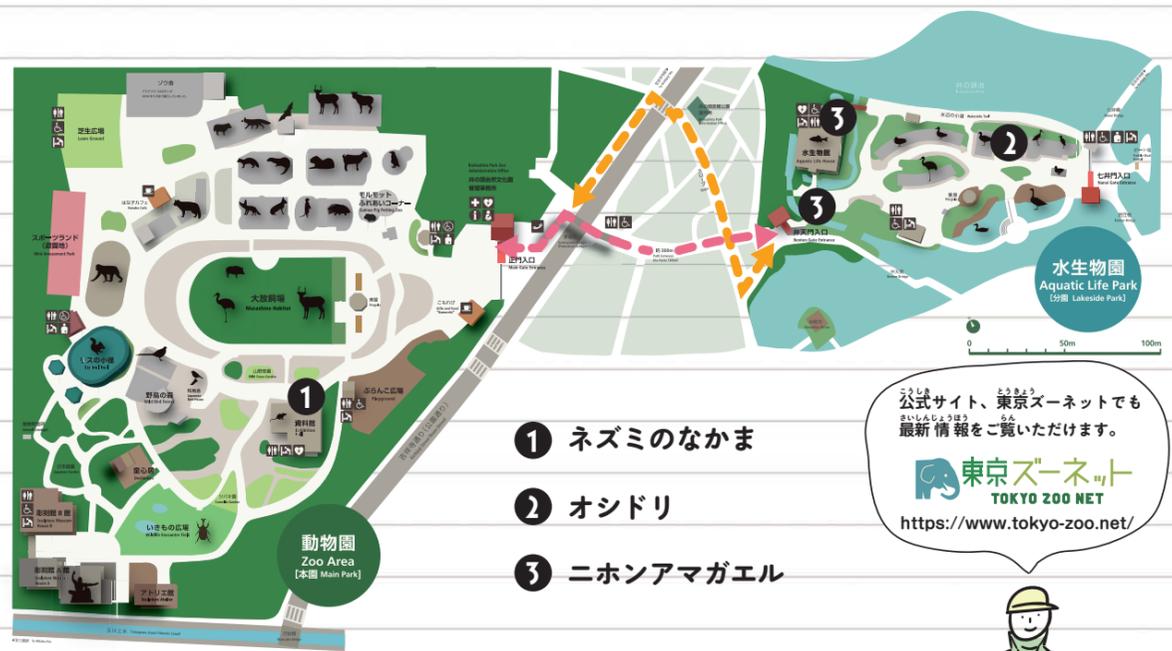
長い指の先には、丸い吸盤があり、ガラスのようなつるつるところでさえ張り付き登ることができます。一方、地面の上を歩き回ってくらすアズマヒキガエルには吸盤はありません。水生動物館で見比べてみてくださいね。

水生動物園 (分園)

今月のピックアップ動物は…
2 オシドリ
3 ニホンアマガエル

鳥たちは時季によって、見た目が大きく変わるものもあります。水生動物園に来たことある方も、はじめての方も、ぜひじっくりと鳥たちの姿をご覧ください。

今月のピックアップ動物は番号の場所で見られます



- 1 ネズミのなかま
- 2 オシドリ
- 3 ニホンアマガエル

公式サイト、東京ズーネットでも最新情報をご覧ください。
東京ズーネット
TOKYO ZOO NET
<https://www.tokyo-zoo.net/>



公式 SNS やってます!
文化園の最新情報を発信しています。





オシドリ（鴛鴦）

英名 Mandarin Duck

学名 *Aix galericulata*

分類 カモ目カモ科